

Ⅲ 老人医療費の伸びの適正化

老人医療費は急速に増加しており、医療保険制度を持続可能なものとしていくためには、その伸びの適正化が不可欠です。

このため、厚生労働大臣が老人医療費の伸びを適正化するための事項を内容とする指針を定め、当該指針に即した都道府県や市町村の取組に対する必要な助言その他の援助に努めることとしています。

年間の医療費の伸び約1兆円のうち、約9割が老人医療費の伸びです（平成11年度）。

老人医療費の伸びは高齢者数の伸びを大きく上回っています。

高齢者1人当たりの診療費は、一般の方の4.9倍となっています（平成12年度）。

高齢者1人当たりの医療費の額は、全国平均では83.2万円ですが、都道府県別に見ると約1.7倍の格差があります（平成11年度）。

高齢者1人当たりの医療費の伸び率にも、地域ごとに格差があり、全国平均が3.9%であるのに対し、都道府県別では1.9%～6.0%となっています（平成11年度）。

（参考1） 過去10年間（平成2年度～11年度）の平均伸び率

国民医療費	4.6%
老人医療費	7.8%（うち高齢者数の伸び4.2%、その他の要因3.6%）
GDP	2.1%

（参考2） 平均在院日数（平成11年 一般病院）

70歳以上	37.8日	70歳未満	21.2日
-------	-------	-------	-------

（参考3） 年間外来（医科）1人当たり受診日数（平成12年度）

高齢者	41.0日	一般	10.8日
-----	-------	----	-------